

ディスクロージャー
新興市場銘柄
2017年度 優良企業



証券アナリスト協会
SAAJ 日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan



「経済産業省認定GNT100選企業」

フロイント産業株式会社

個人投資家様向け説明会資料

JASDAQ

(証券コード 6312)

2018年9月22日

合同IR説明会

コーポレート・コミュニケーション部

目次

I .会社概要

II .中期経営計画及び重点施策

III .フロント産業グループ

二次電池市場向け製品概要

IV .今期の業績予想及び株主還元

V .参考資料



〈社名の由来〉

フロイントはドイツ語で“友達”を意味します。当社の創業者（現 名誉会長）が創業の構想を友人と考えている中で、二人はFreund（友達）であったので、フロイントと名づけました。ロゴは、“友”という文字のくずし字をデザイン化したものです。

〈企業理念〉

創造力で未来を拓く®

〈Vision〉

フロイントグループは、世界中の人々の医療と健康の未来に貢献し、豊かな生活と食の安全・安心を支える技術を生み出し、育成していくことを目指します。

I .会社概要

当社グループ各社とR&D拠点

フロイント産業
株式会社



技術開発研究所
(静岡県浜松市)



マリオン・ラボ
(アメリカ/アイオワ州)

独創的技術での
グローバル化を
積極的に推進

フロイント・ターボ
株式会社



神奈川県横須賀市

FREUND-VECTOR
CORPORATION



アメリカ/アイオワ州



ミラノ・ラボ
(イタリア/ミラノ)

国内ユーザー

機械装置／化成品の販売

機械装置／
化成品の販売

海外ユーザー

プロフィール

- 社名 : フロイント産業株式会社
- 設立 : 1964年4月
- 代表者 : 代表取締役社長 伏島 巖
- 所在地 : 東京都新宿区西新宿六丁目25番13号
- 資本金 : 10億3,560万円 (2018年2月末現在)
- 売上高 : 198億円 (2018年2月期:連結)
- 従業員数 : 360名 (2018年2月末現在:連結)
- 事業内容
 - ・ 機械事業・・・造粒・コーティング装置等の製造販売
 - ・ 化成品事業・・・医薬品添加剤、食品品質保持剤等の製造販売
- グループ会社
 - ・ FREUND-VECTOR CORPORATION
 - ・ フロイント・ターボ株式会社

ハイライト

54年間

創業以来
連続黒字

70%

医薬品会社向け
造粒・コーティング装置
国内シェア

1

グローバル Only

医薬品製造装置・医薬品添加剤を
同一企業体で取り扱う唯一会社

3人/**6**人

社外取締役人数／取締役総数
(平成30年5月30日現在)
社外監査役3名を含め全役員10名中
6名が独立役員のガバナンス体制を
とっています。

数字で見る フロント産業

1位

特許競争力指数(YK値)
例:国際特許分類A61K9/52
「持続または除放型のもの」
工藤一郎国際特許事務所算出

100選

経済産業省
GNT(グローバル・ニッチ・トップ)100選
選定企業

3強

製薬会社向け
造粒・コーティング装置市場で
グローバル3強の1社

ビジネスモデルの特徴は「Pen」と「Ink」

1. 機械部門 (Pen)

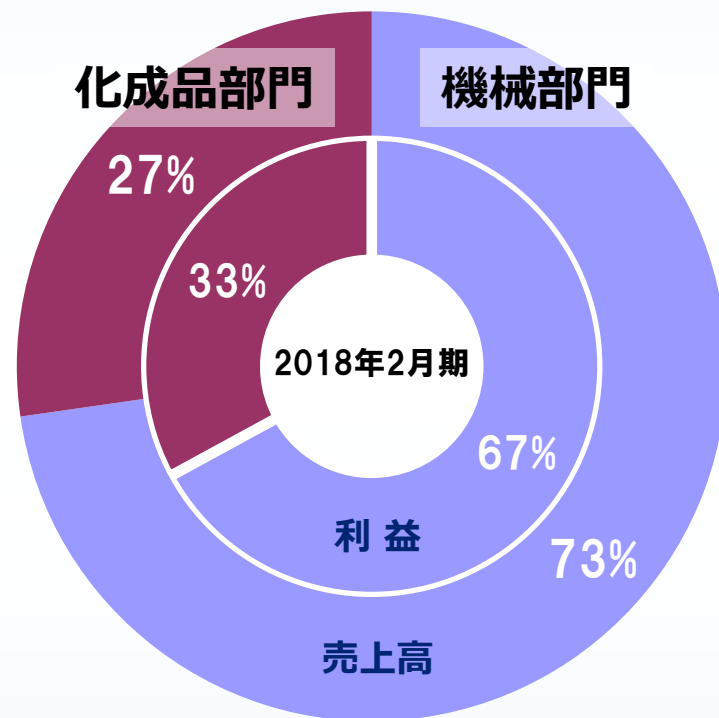
- 医薬品、食品、ファインケミカルなどのさまざまな分野向けに**造粒、コーティング装置**などを製造・販売。
- コーティング装置の**国内販売シェアはトップ**。アジア市場に加え、米国子会社の欧・米展開も加速。**世界で製剤技術と機械装置を唯一共有**する。
- 造粒・コーティング技術に**粉碎・分級技術**を融合させることで産業向け装置の拡販も注力。

2. 化成品部門 (Ink)

- **医薬品添加剤、食品品質保持剤、栄養補助食品**などを製造・販売。
- 医薬品添加剤は、**GMP※1対応設備**で生産。
- 食品品質保持剤は、さまざまな食品の品質保持に利用され、安全な食生活に役立つ。
- 造粒・コーティング技術を用い、ユーザーとの共同開発で**栄養補助食品やシームレスミニカプセル**を商品化。

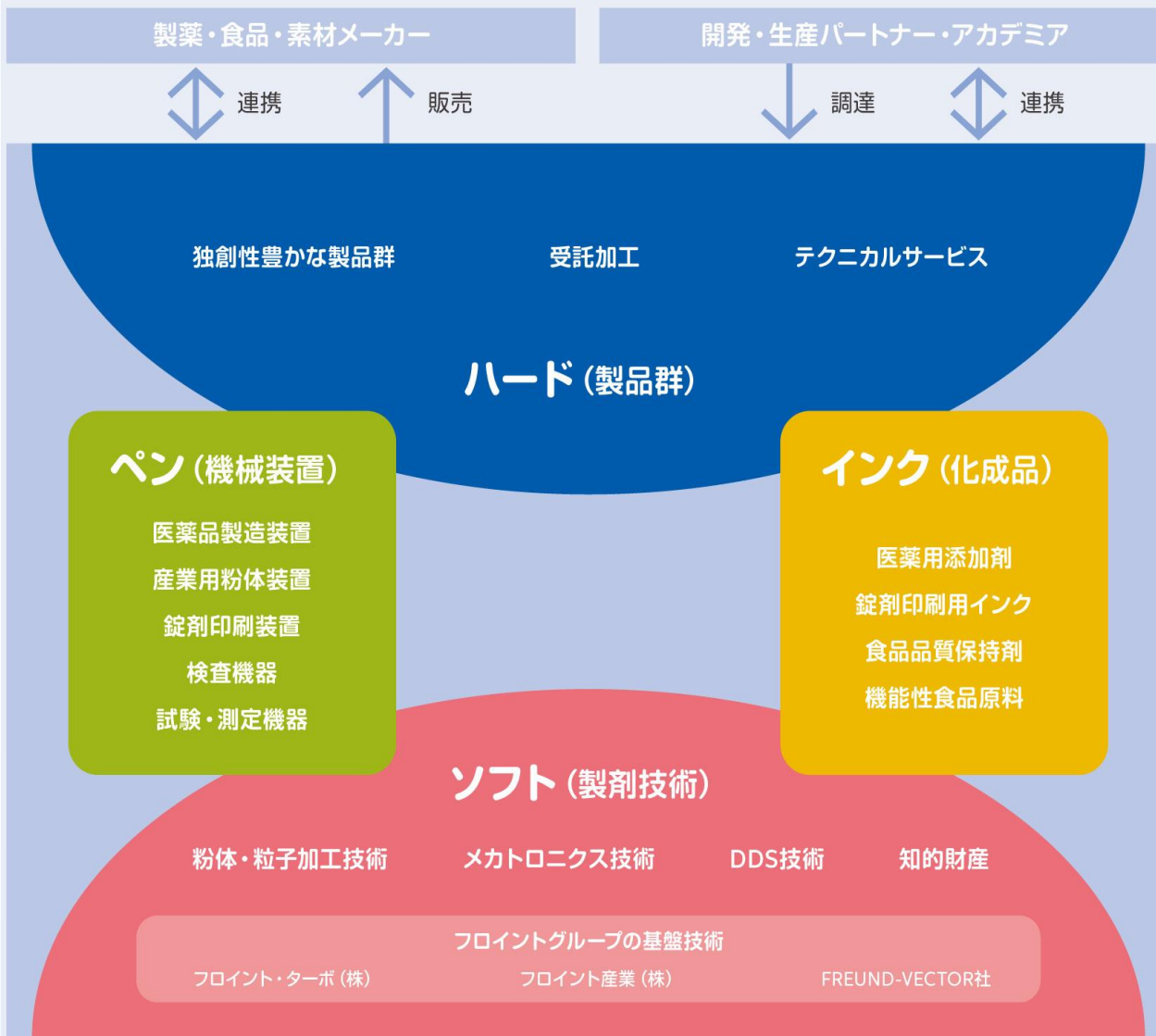
※1 GMP : Good manufacturing Practice

セグメント別 売上高及び利益構成



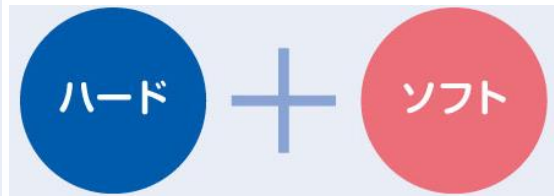
連結売上高 198.0億円
連結営業利益 19.7億円

フロイント産業のビジネスモデル



機械装置「ペン」と化成品「インク」の事業モデル化

当社は、創業当初より、医薬品分野において、**機械装置「ペン」と化成品「インク」を共有する事業モデル**をとおして、競合他社との差別化を図ってまいりました。今日、医薬品製造装置業界におけるリーディングカンパニーの地位を築いております。



「ハード」と「ソフト」の融合によるユニークな付加創造価値

機械装置や化成品などの製品群「ハード」の研究・開発だけでなく、その優れた性能を実現する**粒子加工技術等の製剤技術「ソフト」**を有する当社グループは、「ハード」と「ソフト」を融合し、独創性豊かな自社製品群や受託加工、テクニカルサービスなどのユニークな付加価値創造を推進しています。

グループのビジネスフィールド

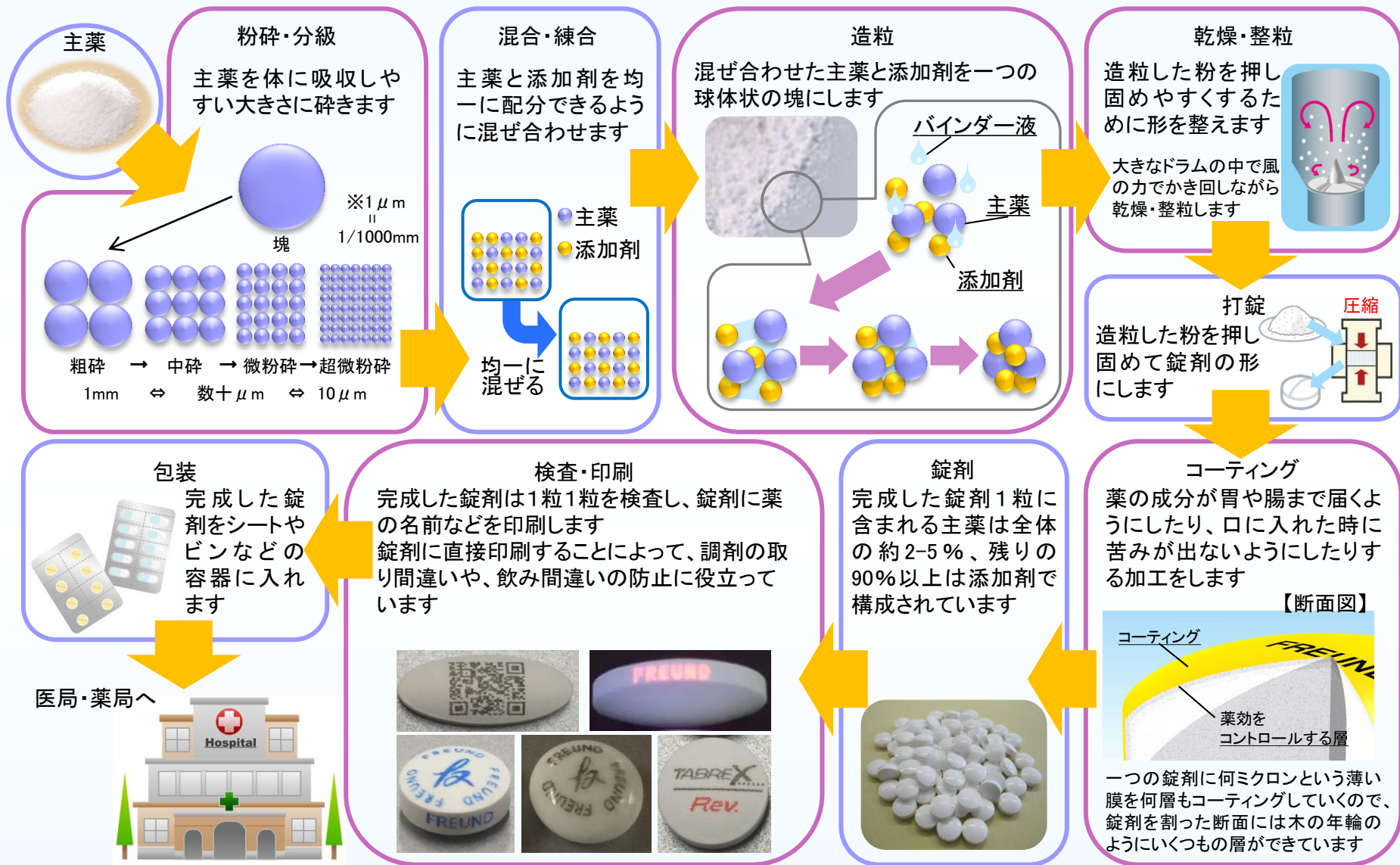
医薬品の製造工程に基づくフロイントグループの事業領域

フロイントグループのビジネスフィールド



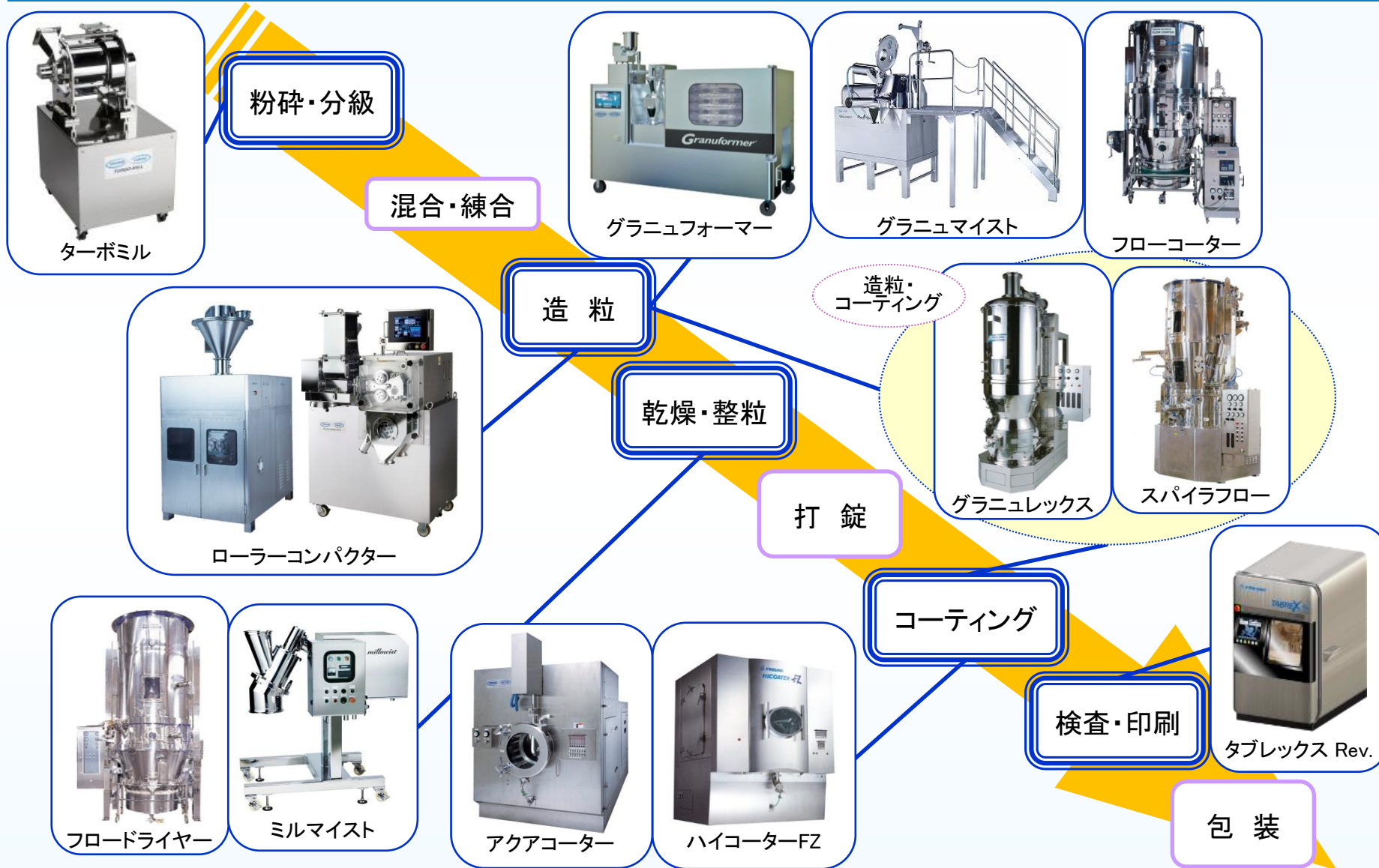
グループのビジネスフィールド

～医薬品(錠剤)の製造工程～



グループのビジネスフィールド

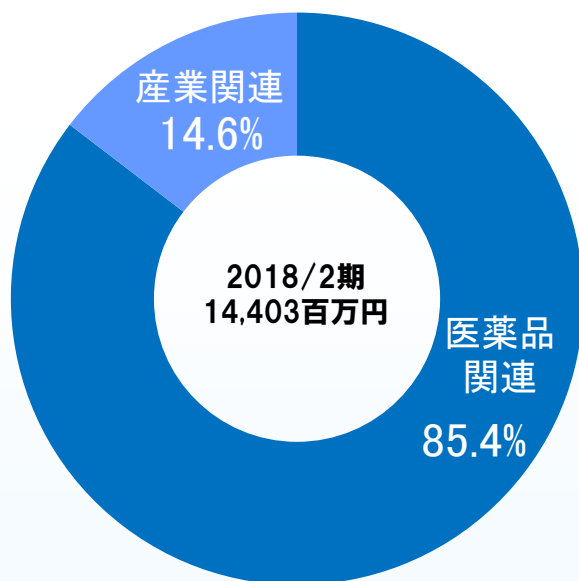
～医薬品(錠剤)の製造工程～



【機械部門】 医薬品会社向け造粒・コーティング装置が主力

- 機械部門は、医薬品業界向けが85%、産業機械向けが15%
- 医薬品会社向けの造粒装置やコーティング装置が主力、錠剤印刷機受注開始
- 産業機械向け増加

売上構成比
(2018/2期)



連続造粒装置
(グラニューフォーマー)

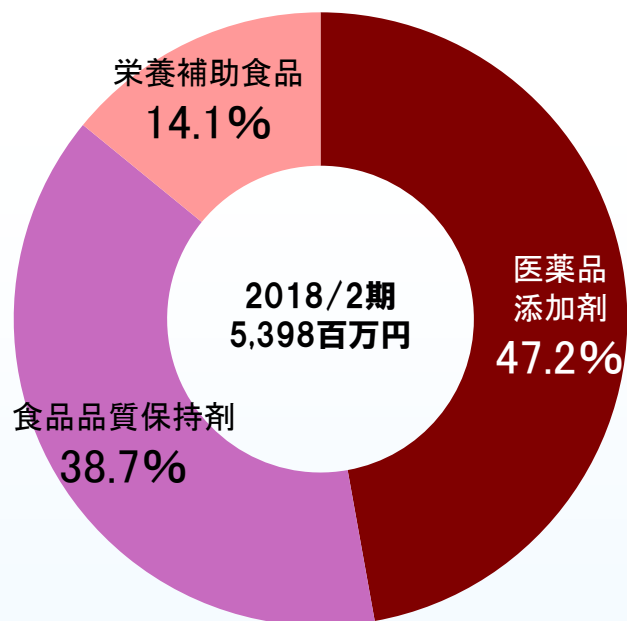
自動錠剤
コーティング装置
(ハイコーター FZ)



【化成品部門】ヘルスケア関連も拡大する製品群

- 医薬品添加剤、食品品質保持剤、栄養補助食品などで構成
- GE薬向け医薬品添加剤の拡販が続く

売上構成比 (2018/2期)



1. 医薬品添加剤

- ・直打用賦形剤
- ・吸着剤・固形化剤・流動化剤
- ・白色着色剤
- ・滑沢剤
- ・光沢剤



2. 食品品質保持剤

- ・食品添加剤
- ・食品品質保持剤



3. 栄養補助食品・他

- ・シームレスミニカプセル
- ・AQshelax(水性シェラック液)
- ・サプリメント



Ⅱ. 中期経営計画及び重点施策

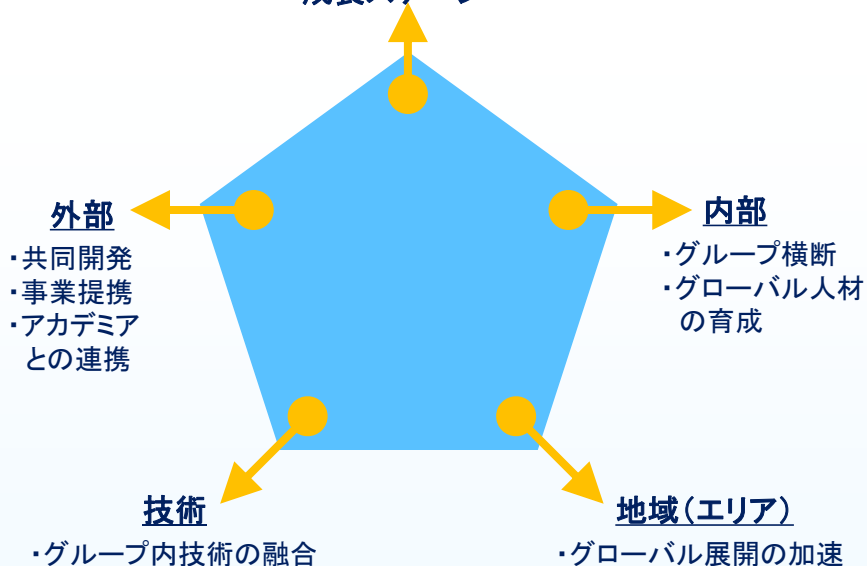
第7次中期経営計画

フロントグループの将来に向け5年後の「こうありたい姿」

ONE FREUND

ONE FREUND により持続的成長へ

新たなる
成長ステージへ



Number One (特別な価値創造)

それぞれの分野、事業でNo.1を目指す

Only One (完全顧客視点)

顧客、社会にとってOnly One の存在を目指す

Be One (ネットワーキング)

グループがひとつになる

第7次中期経営計画 経営目標

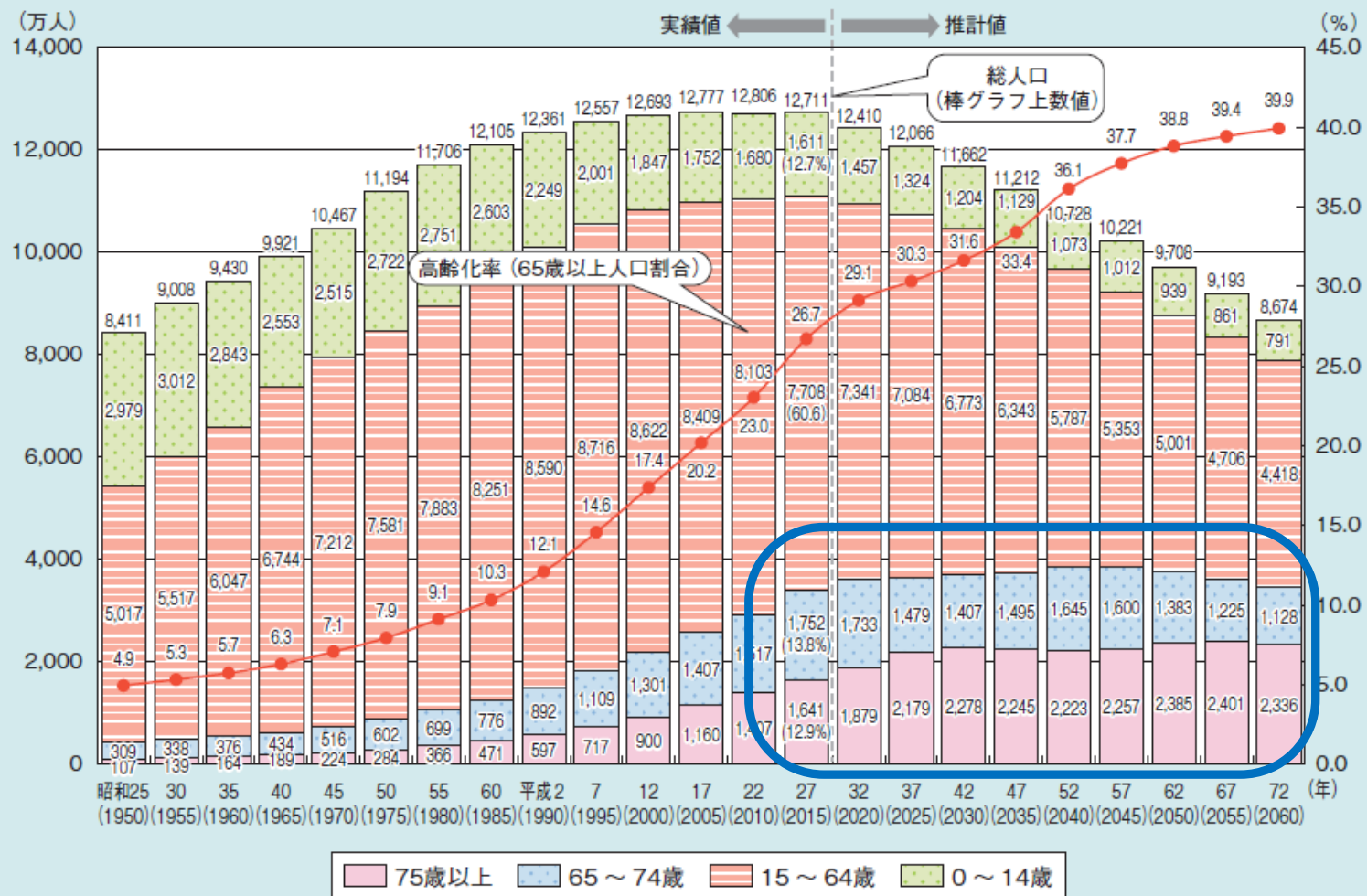
- 機械部門: 既存製品の需要減を新製品、産機分野への展開
海外市場での本格的な事業展開
- 化成品部門: 新製品の増強と医薬品海外市場への進出

- 売上高 300億円
- 営業利益 30億円
- 営業利益率 10%
- ROE 8%以上

■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 当期純利益
(単位: 百万円)



国内の2060年までの高齢化と人口動態の推移



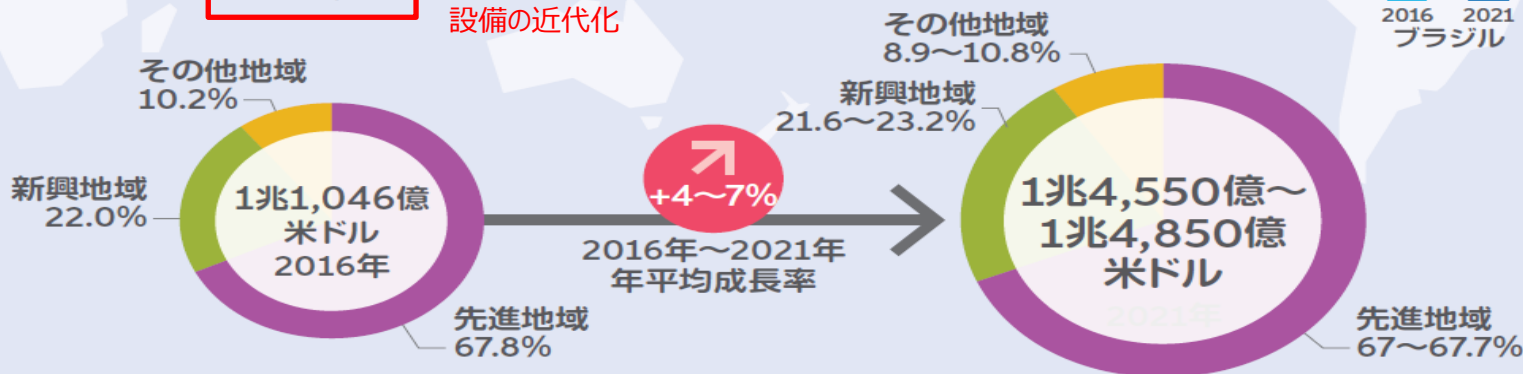
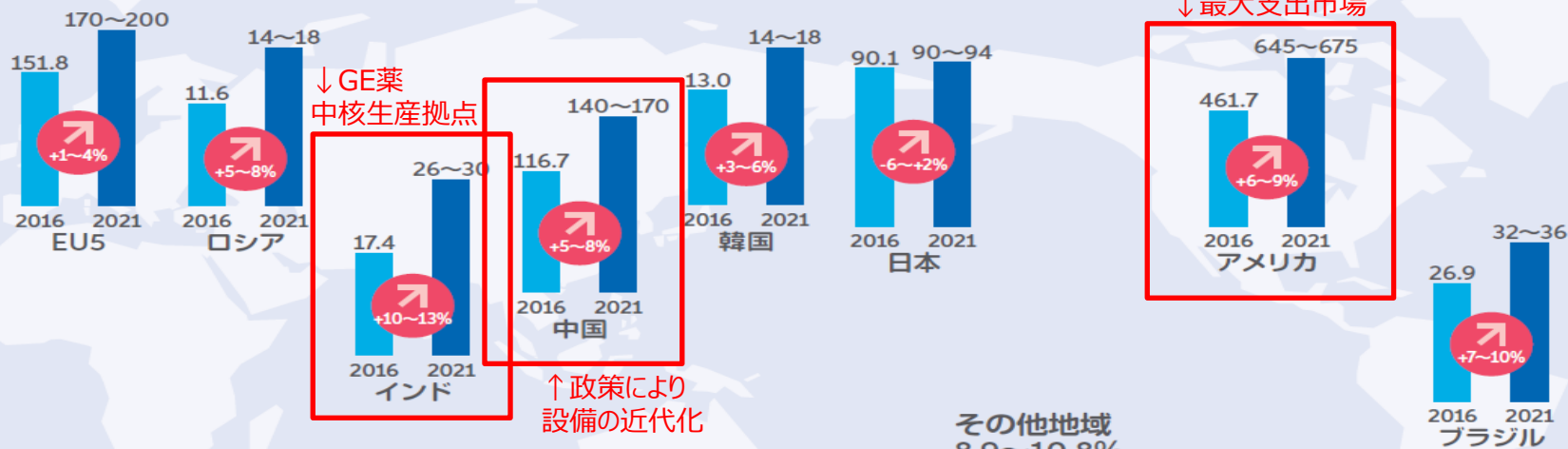
資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2015年は総務省「人口推計（平成27年国勢調査人口速報集計による人口を基準とした平成27年10月1日現在確定値）」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果
 (注) 1950年～2010年の総数は年齢不詳を含む。高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。

世界の医薬品支出(2016年~2021年)

グローバルには、インドを中心とした医薬品新興国市場が拡大

地域別・主要国の医薬品支出

(単位:10億米ドル)



出所: IMS Market Prognosis, October 2016

注: 1. US\$建て支出は変動為替レートにより計算
 2. US\$建て年平均成長率(CAGR)は、恒常為替レートにより計算
 3. 欧州5か国は、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、英国

新製品 錠剤印刷機の紹介 (TABREX.Rev)

- 開発期間: 2015年1月～2016年6月
- 上市: 2016年7月1日
- 販売開始: 同年9月1日
- 受注開始: 2017年2期 第4四半期～
- 特許: 出願中 / 14件 出願予定 / 5件



錠剤印字サンプル



新製品 錠剤印刷機の紹介 (TABREX.Revの機構)

1) 生産規模に自在に対応できるフレキシビリティ

モジュラー方式

生産規模に応じて連結台数を自在に増減でき、将来の生産変動にもフレキシブルに対応できる、モジュラー方式としました。

10万錠/時

30万錠/時

50万錠/時

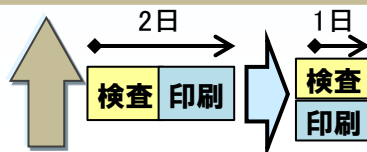
装置の小型化
高さ1800mm、巾1090mm

単列搬送のシンプルなメカ

錠剤を、円盤のエッジに一列に吸着させ、円盤から円盤へ受け渡ししながら、検査と印刷を行います。

2) 工程短縮・ランニングコスト低減

検査工程の追加不要



外観検査機能の装備

印刷前に錠剤の外観を検査します。

メンテナンスが容易

カートリッジ式の印刷ヘッドなので、洗浄が不要、交換が容易で、使うぶんだけを購入できます。

カートリッジ式ヘッド

印刷ヘッドはワンタッチで交換できるカートリッジ式です。

3) 錠剤品種への対応が容易

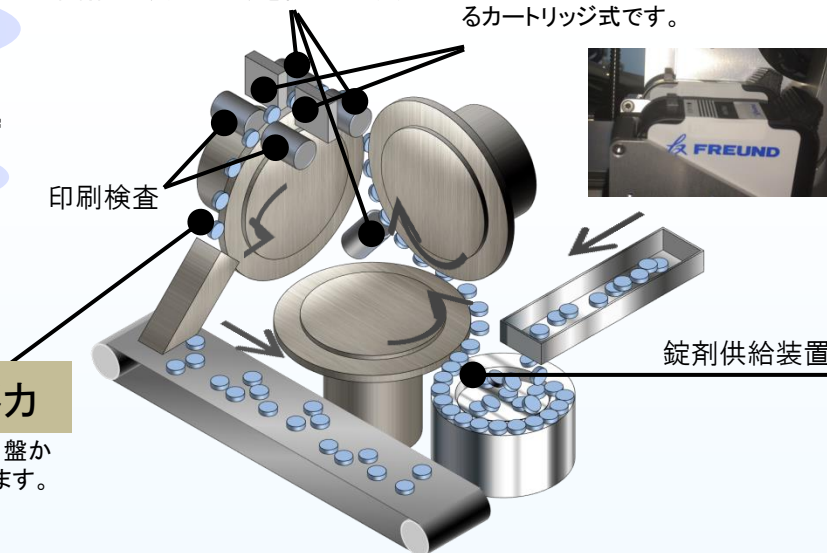
品種切替えが容易

大幅な部材追加や調整なしで、サイズちがいの錠剤に切り替えができます。



ガイドレスの錠剤搬送

錠剤の外周をガイドレスで円盤のエッジに吸着させ、ピックアップしています。



TABREX Rev
紹介動画

III.フロイント産業グループ 二次電池市場向け製品概要

二次電池の主部材製造装置に対応

● 正極材と負極材の製造装置を供給

・粉砕技術

電気的高活性の材料を所定の粒度分布の微(ナノ)粉体に粉砕する ... V-ターボ, A-ターボ

・コーティング技術

正・負極材料にコーティングを行い表面の改質を行う ... Airborne Coating System

・粉体圧密調整技術

正・負極材料に圧力を加え密度を上げる ... ローラーコンパクター



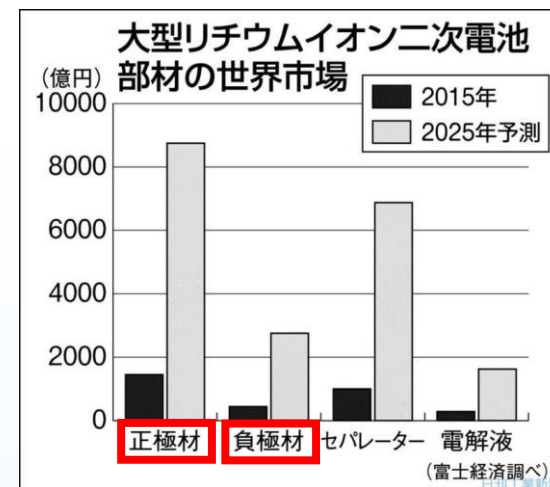
ローラーコンパクター



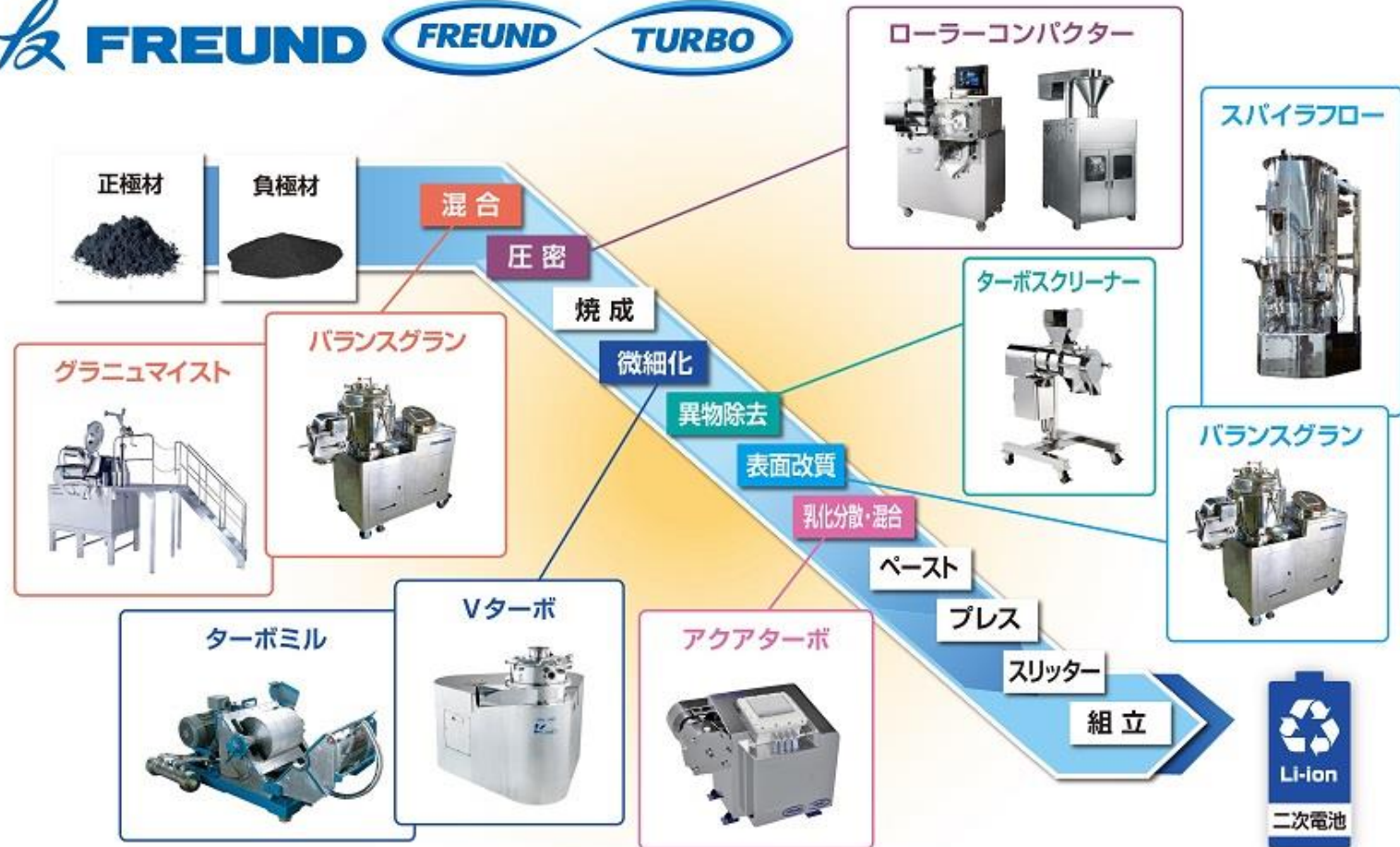
バランスگران



V-ターボ



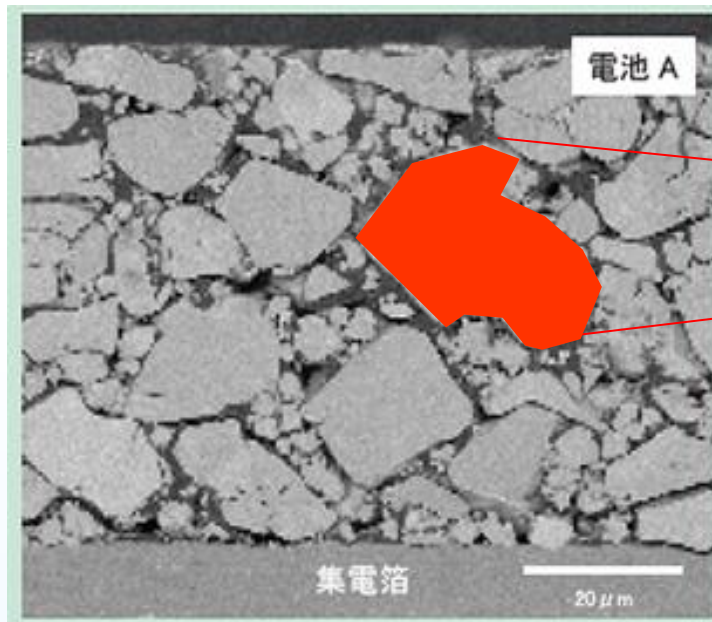
Lithium-ion Battery



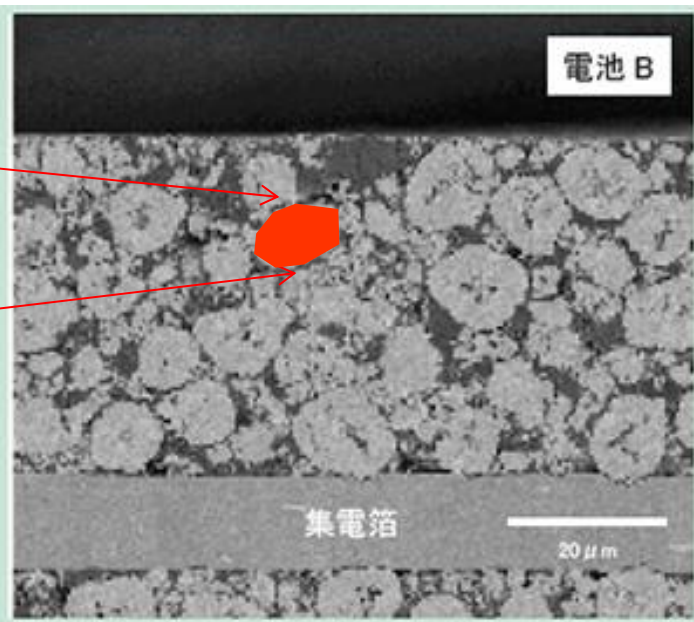
微細化は有効な高容量化への手段

- 粉碎技術において優れたフロイントグループの装置が高容量化の手段として用いられる

従来型電池



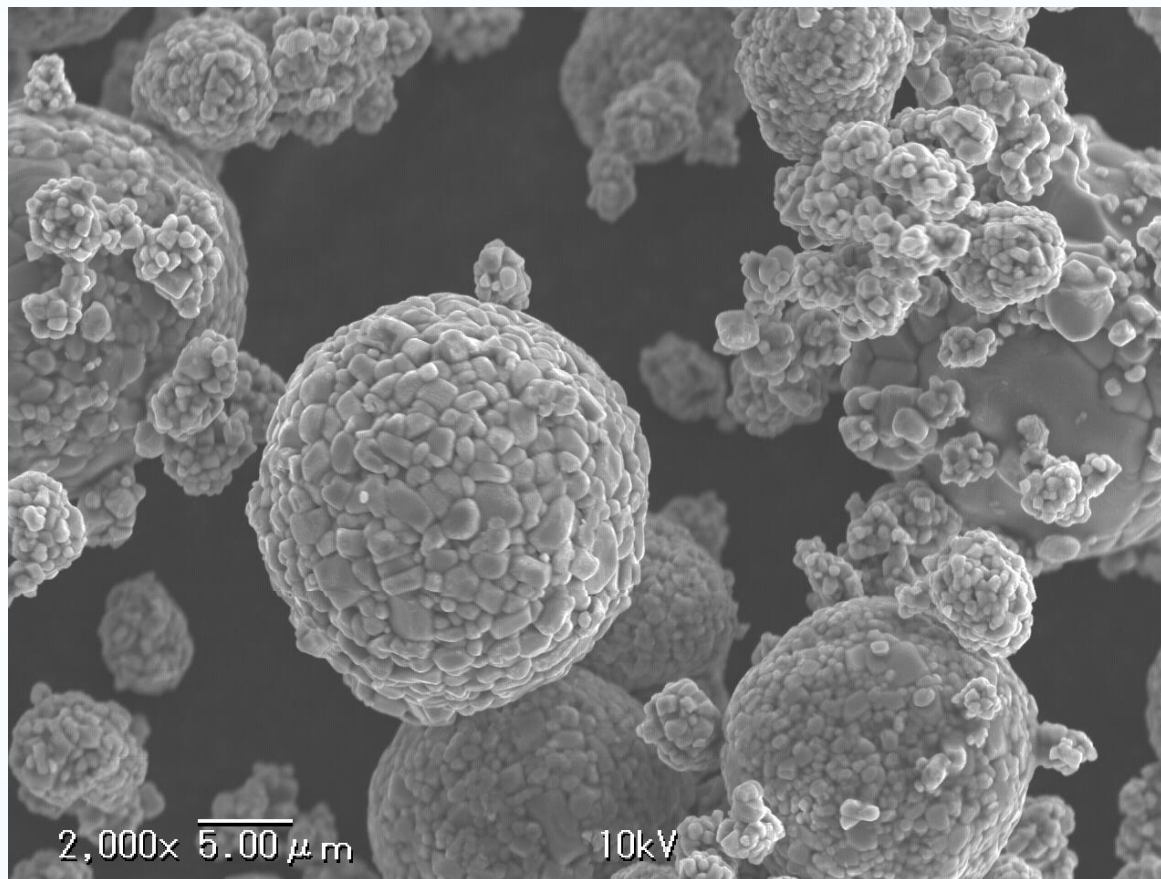
高容量電池



正極材：コーティング例

NCM[※] coated particle

医薬に比べ、より小さい粒子へのコーティング（～10nm）



※ N:ニッケル C:コバルト M:マンガン

● 山形大学

xEV(電気自動車)飯豊(いいで)開発研究センター

日本最新のEV(電気自動車)向け次世代バッテリー開発の拠点



EV(電気自動車)向け次世代バッテリー開発



次世代全固体二次電池試作設備

IV. 今期の業績予想及び株主還元

今期業績予想

- 売上総利益:粗利率の1%以上改善への取り組み
- 販売管理費:グループ会社で総コストの見直し
- 非医薬分野(食品・LiB)向け案件の拡販を含め、グループ総体で収益の拡大

(単位:百万円)

	2018/2月期 (実績)	2019/2月期 (予想)	前年比増減	
			(百万円)	%
売上高	19,801	20,000	+198	+1.0
営業利益	1,971	1,900	△71	△3.6
経常利益	1,994	1,900	△94	△4.7
純利益	1,477	1,350	△127	△8.6
一株純利益	85.69	78.29	△7.40	△8.6
設備投資	524	500	-	-
減価償却費	344	300	-	-
研究開発費	862	750	-	-

部門別収益見通し

- 機械部門：LiB案件の拡大、TABREXの本格的拡販、メンテナンス事業
- 化成品部門：医薬品添加剤の国内拡販および輸出(インド向け)の増加

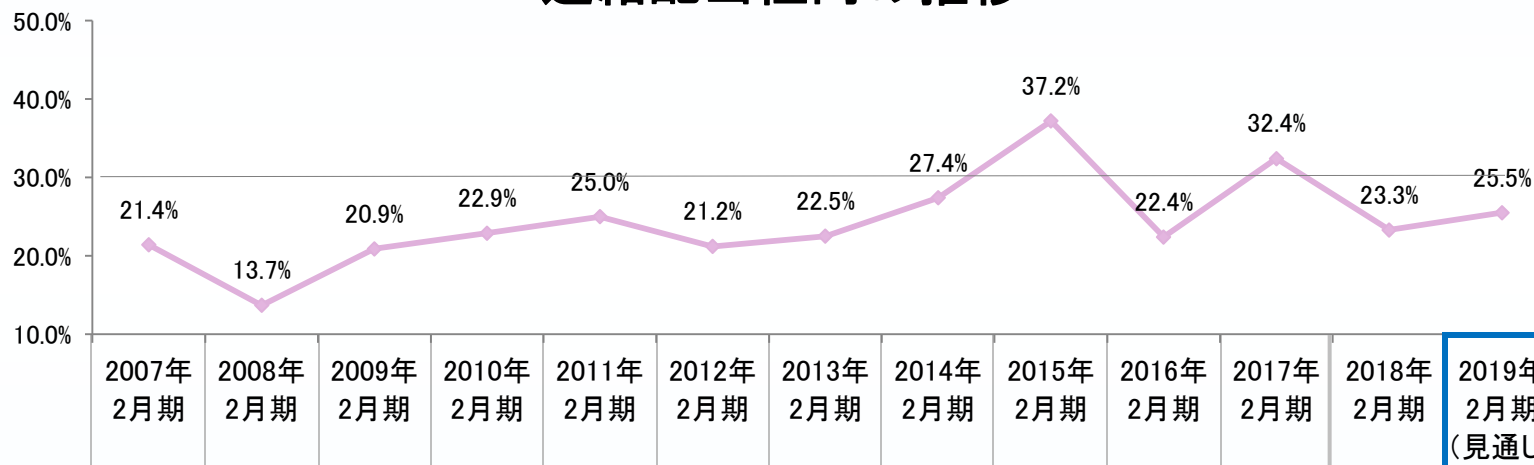
(単位:百万円)

	2018/2月期		2019/2月期(予想)		前年比増減	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	(百万円)	%
連結売上高	19,801	100.0	20,000	100.0	+198	+1.0
機械部門	14,403	72.7	14,000	70.0	△403	△2.8
化成品部門	5,398	27.3	6,000	30.0	+601	+11.1
セグメント利益	1,971	100.0	1,900	100.0	△621	△31.5
機械部門	1,631	82.8	-	-	-	-
化成品部門	801	40.6	-	-	-	-
全社、消去	△461	△23.4	-	-	-	-
為替(円/ドル)	111.46	-	110.00	-	-	-

配当予想

- 年間の連結配当性向目標は30%
- 一株当たり配当金は20円(普通配)

連結配当性向の推移



当期純利益(百万円)	403	943	619	563	516	608	765	787	695	961	1,064	1,477	1,350
1株当たり配当金(円)	5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	10	12.5	15	12.5	20	20	20
発行済み株式総数(千株)	4,600	4,600	4,600	9,200	9,200	9,200	9,200	9,200	9,200	9,200	18,400	18,400	18,400

(注) 2009年6月1日付け及び2016年3月1日付けで株式分割1対2を実施しており、2016年2月期以前の配当金は分割調整後の金額です。

株主優待

中間期末株主様に 「オリジナル・クオカード」を謹呈しています。



2016～18年2月期
各期のカードデザイン

【優待内容】

所有株式	贈呈内容
1年以上	クオカード 1,000円分
3年以上	クオカード 2,000円分

毎年8月31日現在、**1単元(100株)**以上保有で当社株主名簿に記載または記録された株主様が対象となります。

ご参考: 株価946円(2018年9月20日終値)

配当利回り: 2.11% ※

優待込: 3.17% ※

		100株	300株	500株
配当金(年間)	1株あたり配当金=20円	2,000円	6,000円	10,000円
株主優待(年間)	(1年以上3年未満継続保有)クオ・カード		1,000円分	
	(3年以上継続保有)クオ・カード		2,000円分	
ご購入予算	1株=946円で計算	94,600円	283,800円	473,000円

※1単元(100株)保有の場合

株価参考資料 (2018/09/20 終値)

東証JQS 6312 機械

フロイント産業(株)

946

(前日比 -4(-0.42%))

前日終値 (2018/09/20)	950
始値	955
高値	957
安値	938
出来高	31,100株
売買代金	29,569千円
値幅制限 (2018/09/20)	800~1,100

参考指標

時価総額	17,406百万円
発行済み株式数 (2018/09/20)	18,400,000株
配当利回り (会社予想)	2.11%
1株配当 (会社予想) (2019/02)	20.00
PER (会社予想)	(連) 11.95倍
PBR (実績)	(連) 1.25倍
EPS (会社予想) (2019/02)	(連) 79.18
BPR (実績) (2018/02)	(連) 757.96

最低購入代金 94,600

単元株数	100株
年初来高値 (18/01/10)	1,443
年初来安値 (18/03/26)	839



V. 參考資料

要約損益計算書(第54期 期末)

(単位:百万円)

	2017/通期		2018/通期		前年同期比増減	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	%
売上高	21,164	100.0	19,801	100.0	△1,363	△6.4
売上原価	14,343	67.8	12,985	65.6	△1,358	△9.5
売上総利益	6,821	32.2	6,816	34.4	△4	△0.1
販管費	4,779	22.6	4,845	24.5	+65	+1.4
営業利益	2,041	9.6	1,971	10.0	△70	△3.4
営業外損益	56	0.3	22	0.1	△33	△59.4
経常利益	2,097	9.9	1,994	10.1	△103	△4.9
特別損益	△313	-	99	0.5	+412	-
税引前利益	1,783	8.4	2,093	10.6	+309	+17.3
当期純利益	1,064	5.0	1,477	7.5	+413	+3.8

営業外損益

- ・営業外収益 → △30
- ・営業外費用 → 3

特別損益

- ・投資有価証券償還益 →101
- ・固定資産売却損 →△2

要約貸借対照表(第54期 期末)

(単位:百万円)

	2017/2月期末	2018/2月期末	増減額
流動資産	14,938	14,784	△154
現金及び預金	6,982	6,568	△414
売上債権 ※1	4,403	4,451	+48
棚卸資産	2,765	3,185	+420
固定資産	4,162	4,341	+178
有形固定資産	3,234	3,370	+135
無形固定資産	55	102	+46
投資その他資産	872	868	△3
資産合計	19,101	19,125	+24
流動負債	6,592	5,564	△1,027
仕入債務 ※1	3,058	2,823	△234
前受金	1,831	1,498	△333
固定負債	323	318	△5
退職給付に係る負債	201	200	△1
負債合計	6,916	5,883	△1,032
純資産合計	12,185	13,242	+1,056

棚卸資産

+420百万円

・商品・製品	△141
・仕掛品	+334
・原材料・貯蔵品	+227

有形固定資産

・建物及び構築物	+27
・建物仮勘定	+100
・その他	+8

無形固定資産

・のれん	+92
・ソフトウェア	△46

※当社の連結子会社であるFREUND-VECTOR CORPORATION及びフロイント・ターボ株式会社は、当連結会計年度より、決算期を毎年12月31日から毎年2月末日に変更しているため、当連結会計年度においては、平成28年1月1日から平成29年2月28日までの14カ月を対象としております。

※1 電子記録債権債務含む

要約キャッシュ・フロー計算書(第54期 期末)

(単位:百万円)

	2017/2月期	2018/2月期
営業キャッシュ・フロー	3,605	594
税引前利益	1,783	2,093
減価償却費	338	344
売上債権の増減額(△は増加)	1,243	△66
たな卸資産の増減額(△は増加)	△382	△415
前受金の増減額(△は減少)	571	△315
仕入債務の増減額(△は減少)	409	△152
法人税等の支払額	△245	△694
投資キャッシュ・フロー	△351	△493
有形固定資産の取得による支出	△474	△592
財務キャッシュ・フロー	△277	△499
リース債務の返済による支出	△61	△48
配当金の支払額	△215	△343
現金及び現金同等物 増減額	2,940	△431
現金及び現金同等物 期末残高	6,982	6,568

フロントグループ ディスクロージャーポリシー

1. 情報開示の基本方針

当社は、広く社会に信頼される企業として、経営の透明性向上を重要な責務のひとつと考えています。その考えに基づき、すべてのステークホルダーの皆さまに、会社情報の公平かつ適時適正な開示を継続的に行います。

2. 情報開示の基準

当社は、会社法、金融商品取引法などの関係法令および当社が上場する証券取引所が定める適時開示に関する諸規則にしたがって、情報開示を行います。

当社は、関係法令および適時開示に関する諸規則に該当しない情報であっても、株主・投資家の皆さまの投資判断にとって必要であると考えられる情報については、積極的に開示いたします。

3. 情報開示の方法

当社は、東京証券取引所の提供する適時開示情報伝達システム(Timely Disclosure network、以下「TDnet」という)を通じて情報を開示いたします。TDnetにより開示した情報は、情報開示の適時性・公平性に配慮し、速やかに当社のインターネットホームページに掲載いたします。

そのほかの情報についても、適時開示の趣旨に則り、プレスリリース、当社のインターネットホームページへの掲載などにより公平かつ迅速に開示いたします。より多くのステークホルダーの皆さまに分かりやすい開示を行うため、開示情報は日本語とあわせ、その英訳の開示に努めます。

4. インサイダー取引の未然防止

当社は、内部情報の適切な管理および株式などの売買などについて遵守すべき基本事項を社内規則に定め、インサイダー取引規制の周知徹底と株式などの売買管理体制の適切な運用により、インサイダー取引を未然に防止します。

5. 沈黙期間

当社は、決算情報の漏洩を防止し、法令遵守および公平性を確保するため、各四半期決算期日の翌日から当該決算発表日までを「沈黙期間」と定めます。当該期間中は、決算に関連するコメントや質問・照会に対する回答は差し控えさせていただきます。ただし、業績が予想と大きく乖離する可能性がある場合には、適時開示に関する諸規則に従い適時適正に開示いたします。

6. 将来予測について

当社が開示する情報の中には、業績予想以外にも戦略、事業計画などの将来予測に関する情報が含まれておりますが、これらの情報は作成段階において入手可能な情報をもとに判断したものであり、その後の経済情勢や市場環境の変化などによって、将来予測は大きく異なる可能性があります。

(2017年3月27日制定)

IR活動の方針

当社は、2017年3月27日に取締役会で決定された以下の方針に基づきIR活動を実施しています。

株主・投資家との建設的な対話に関する方針

当社は、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上をめざし、株主・投資家の皆様との建設的な対話を積極的に進めます。当社の経営方針や経営状況、企業文化をわかりやすく説明し、株主・投資家の皆様のご理解を得て、「FREUNDファン」として継続的にご支援いただけるように努めます。

1. 推進体制株主・投資家の皆様との対話

IR担当部署のコーポレート・コミュニケーション部が担い、社長が統括します。また、IR管掌取締役が社長を補佐します。株主の皆様との対話を促進するため、社内の関連部門は、開示資料の作成・審査や必要な情報の共有など、積極的に連携を図り、公正且つ迅速に情報開示を行います。

2. ステークホルダーとの対話

当社は期末及び第2四半期の決算説明会(第1・3四半期はスモールミーティング)を実施し、その情報は当社ウェブサイトに公開します。また、中長期経営計画を策定した際には、経営戦略や経営計画についてわかりやすく説明いたします。さらに、機関投資家への訪問も積極的に実施し、経営方針や業績の説明を行います。また、証券会社主催の投資家フォーラムや個人投資家説明会等にも参加します。

株主通信やFREUND Report(統合報告書)の発行、ウェブサイト専用ページ(<http://www.freund.co.jp/ir/>)の開設などにより、事業や財務情報とともに財務諸表に載らない資産(見えない資産)を紹介することで当社グループの企業価値を正しくご理解いただけるように、情報開示の充実に努めます。

3. 株主・投資家からの意見を社内へフィードバックする仕組み

株主・投資家の皆様との対話において把握された意見は、社長、取締役や関係各部に適宜報告し、情報を共有します。

4. インサイダー情報の管理

各四半期の決算期末日より決算発表日までの期間はサイレント(沈黙)期間とし、投資家の皆様との対話を制限しています。インサイダー情報については、社内の内部情報管理・内部者取引規制に関する規程に従い、情報管理の徹底を図っています。

〈お問い合わせ先〉
フロイント産業株式会社
コーポレート・コミュニケーション部

TEL:03-6890-0767

FAX:03-6890-0870

E-Mail : ir@freund.co.jp

当社IRサイトもご覧ください。 <http://www.freund.co.jp>

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。

ご清聴ありがとうございました。